

大阪府におけるチュウヒの繁殖確認

納家 仁¹, 小海途銀次郎², 清水俊雄³

1. 〒594-1122 和泉市北田中町 311

2. 〒586-0012 河内長野市菊水町2-11

3. 〒590-0133 堺市南区庭代台 1-23-5-206

はじめに

チュウヒ *Circus spilontus* はロシア極東南部, モンゴル以東, 中国東北部, サハリンなどで繁殖し, 東南アジアで越冬する(森岡 1995). 日本では北海道や九州以北の湿地や干拓地などの広いヨシ原で局所的に繁殖し, 一部には留鳥と思われるものがおり, 多くのものは冬鳥としておもに本州以南に渡来する(森岡 1995). 大阪では淀川や南港埋立地などで, 1980年代後半までチュウヒの記録が少数あるものの越冬については毎年の記録がなく, また繁殖については今までに記録がなく, 数少ない冬鳥とされていた(日本野鳥の会大阪支部 1987). しかし, 1988年 4月に大阪湾岸の堺第7-3区埋立地(堺市)で巣材運びが確認されており(和田 私信), 2004年 9月には筆者らによって同埋立地で繁殖したと思われるチュウヒの若鳥が複数羽確認された. このような状況から, 近年は当該埋立地内で継続的にチュウヒが繁殖を行なっている可能性があるかと判断し, 2005年 5月からチュウヒの生息状況の調査を開始した. チュウヒが繁殖するためにはヨシ原などの広大な草地環境を必要とするため, 全国的に繁殖適地が限られており, このような埋立地の草地環境での繁殖は貴重な記録であると考えられる. そこで, 本種の保護に役立つことを願い, 2005年と2006年の 2年間分ではあるが調査結果をまとめ, ここに報告する.

調査地および調査方法

調査地は, 産業廃棄物の広域的総合的処理を目的に, 面積 280haにおよぶ海面の埋め立てが行なわれてできた造成地である. 埋め立て完了後は, 裸地から草地への変遷, 地盤の沈下による湿地の出現などを通じ, チュウヒなどの草原環境を好む野鳥の生息地となっていく(図 1).

チュウヒの繁殖状況を確認する目的で, 2005年 5月から 7月にかけては 3回, 2006年 5月から 7月にかけては 5回の現地調査を実施した. 調査には毎回 5~7名が参加し, おもに埋立地中央部の標高15~25mある調査地全体を見渡せる複数の小高い場所から, 8~10倍の双眼鏡および20~30倍の望遠鏡をもちいてチュウヒの行動観察を行なった. 2006年 6月には, 営巣確認のために, 営巣していると考えられる草地内の踏査を行なった.

2007年 4月13日 受理

キーワード: チュウヒ, 繁殖, 大阪府



図 1. 調査地の環境.

Fig. 1. Study site.



図 2. Nつがいの放棄巣.

Fig. 2. An abandoned nest of N pair.

結果および考察

2005年 5月に巣材運びや、つがい間の餌の受け渡しを観察した。巣があると思われる調整池のアシ原の中に雌が出入りしている状況から、抱卵直前であると考えられた。同つがい以外にも1つがいの生息を確認できたが、その後は十分な調査ができず、2005年は巣の特定やヒナの確認には至らなかった。

2006年は前年同様、2つがいのチュウヒ(以下より、TつがいとNつがいとする)の繁殖行動がみられ、1羽の巣立ちを確認できた。付表 1に2006年におけるおもな観察事項を、下記にそのうちで繁殖に関わる観察事項を述べる。

5月 1日

成鳥 2つがいの他に雄成鳥が 1羽みられた。いずれも巣材運びや求愛飛翔が確認できたことから、調査地では 3つがいが繁殖活動に入っている可能性が考えられた。つがいであることが確認されている 2つがいは、営巣していると考えられるエリア名からそれぞれ「Tつがい」「Nつがい」と呼ぶこととした。

5月23日

雄 2羽の飛翔が確認されたが、雌の飛翔は確認できなかった。雌はおそらく抱卵中であると考えられた。

6月の調査では、営巣している可能性の高い草地 2か所(Nつがい:背の高いススキの草地, Tつがい:調整池内のアシ原)をそれぞれ 2名で踏査した。

6月 9日

背の高いススキの草地内でNつがいの巣を発見した。巣の中央部に産座が認められたものの、卵やヒナの姿はなく、放棄されたものと思われた(図 2)。



図 3. Tつがいの巣とヒナ.

Fig. 3. A chick in the nest of T pair.

6月20日

調整池のアシ原内でTつがいの巣、巣の上にいる20日齢程度のヒナ 1羽を発見した。ヒナは全身が白い綿羽に包まれており、風切羽や雨覆、肩羽、尾羽が少し伸び、背面には黒いV字の模様があった。巣に接近したところ、ヒナは巣上で腰を落とした状態のまま、声を発せず口を開けて警戒していた(図 3)。巣は折り倒したアシの上であり、横幅 110cm、奥行80cm、高さは水面から30cm程度であった。Nつがいの放棄巣とTつがいの巣との距離は、約1200mであった。

7月18日

調整池近くのセンダンの木に止まる、Tつがいの巣立ち後の幼鳥を確認した。幼鳥は背面が赤褐色であり、顔から胸にかけては薄茶色、目は黒色であった。警戒心は少なく、比較的近距离から観察できた。また、飛翔している姿も確認した。

調査地においては、1998年以降の繁殖期において断片的にチュウヒの観察記録があり、おそらく継続的に繁殖していたのではないかと考えられるが、これまではほとんど調査ができない状況であった。

近畿地区鳥類レッドデータブック(江崎ほか 2002)によれば、チュウヒの繁殖個体群は危機的絶滅危惧種に位置づけられ、近畿地方では滋賀県の琵琶湖周辺で留鳥として周年生息し繁殖しているが、個体数はもともと少ないうえに減少しており、湖岸の埋立てによる生息環境の消失も大きく、滋賀県ひいては近畿地方全体で絶滅する可能性がきわめて高いとされている。また兵庫県においては海岸のヨシ原にも生息していたが、1980年代にほぼ消失したとされている。こういった状況の中、大阪府においてチュウヒの繁殖が確認された意義は大きく、今後は近畿地方におけるチュウヒの安定した繁殖地となるよう見守っていく必要があると考える。

謝 辞

調査地への立ち入りに際し、大阪府環境農林水産部の職員の皆様には便宜をお計りいただいた。また、西垣外正行、橋本正弘、横島彪、太田祐子の各氏には調査に参加、ご協力いただいた。ここに記して厚くお礼を申し上げる。

引用文献

- 江崎保男・和田岳・山岸哲(監修). 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 京都大学学術出版会, 京都.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 日本野鳥の会大阪支部. 1987. 大阪府鳥類目録. 日本野鳥の会大阪支部, 大阪.
- 和田岳. 和田の鳥小屋 <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html>

Recent record of Eastern Marsh Harrier *Circus spilonotus*
breeding in Osaka, western Japan

Hitoshi Naya¹, Ginjiro Kogaito², Toshio Shimizu³

1. 311 Kitatanakacho, Izumi, Osaka 594-1122, Japan

2. 2-11 Kikusuicho, Kawatinagano, Osaka 586-0012, Japan

3. 1-23-5-206 Niwashirodai, Minami-ku, Sakai, Osaka 590-0133, Japan

More than one juvenile Eastern Marsh Harriers *Circus spilonotus* was observed on reclaimed land in Osaka Bay in September 2004. The juveniles were assumed to have fledged here.

Therefore, we carried out a study on the breeding of the species in the reclaimed land between May and July 2005 and 2006. In 2005 we detected two pairs of Marsh Harriers, which engaged in breeding activities, such as nest-material carrying and food transfer between the mates of a pair. We could not, however, locate their nests. The two pairs also engaged in breeding activities in 2006. We located their nests, one of which was deserted and the other of which held a chick, and confirmed that the second nest fledged a young successfully.

It is reasonable to assume that the population of Eastern Marsh Harriers is on the verge of extinction in the Kinki district (an area around Osaka), western Japan, the recent breeding of the species in Osaka has great significance..

Key words: Eastern Marsh Harrier, Breeding, Osaka

付表 1. 2006年におけるチュウヒの繁殖状況調査の概要と観察事項. 調査日とおもな観察事項.

調査日	調査時間	天候	個体数	観察事項
5月 1日	9:00～ 16:30	晴	成鳥 5羽 (2つがい+雄 1羽)	2つがいは明らかに行動圏を分けて行動している。Nつがいは 2羽が上下に並び両足を下げてディスプレイ飛行したり、特定の草地に出入りをくり返しているため巣作り中で産卵前と思われる。Tつがいは 2羽がヨシ原の特定の場所に入入りし、雌は長時間入っていることから抱卵初期と思われる。他に 1羽が別の行動圏と思われる場所で探餌飛行をしており、3つがいが生息している可能性がある。 13:30頃 Tつがい雄が、ヒヨドリを捕食(後刻、捕食跡の地上でヒヨドリの頭部とペリットを確認する)。
5月 23日	9:00～ 16:00	小雨	成鳥 2羽 (雌 2羽)	日中はほとんど飛ばない。雌は巣にいるのか、飛翔みられず。チュウヒが捕食したと思われるカルガモの食痕あり。
6月 9日	13:00～ 16:50	曇	成鳥 2羽 (Tの雌 1, Nの雄 1)	14:03 埋立地中央部(Nエリア)の小高いところの背の高いスキの群落を踏査中、チュウヒの巣を発見。巣の中央部に産座があるが卵、ヒナの姿なく放棄されたものと思われる。 14:23 Tつがい雌が巣材運び 16:30～Nつがい雄が止まる。
6月 20日	9:00～ 16:00	晴	成鳥 5羽 (Tつがい+Nつがい +ほか 1羽)と Tヒナ 1羽	9:42 Tつがい雌が止まる(調整池の南側の倒れた枯れ木)。 12:57 調整池のアシ原を踏査。Tつがいの巣とヒナ 1羽(20日齢程度)を発見。雌が上空を舞い警戒。巣は横幅110cm、奥行80cm、高さは水面から30cm程度。 14:35 Tつがい雌が止まる(調整池の東側のセندانの木)。 14:40 Nつがいの 2羽が放棄巣から北へ約100m離れた地点にある低い草地に出入りする。再営巣の可能性があるとみて踏査するが不明だった。 15:28 風車ひろば以南に属すると思われる 1羽が海水面を渡って西方へ飛行し、消える。 16:00 Nつがいと思われる 1羽が海水面を渡って東方約 1kmにある塚 2区埋立地方向へ飛行する。
7月 18日	13:00～ 16:45	雨/曇	成鳥 5羽 (Tつがい+Nつがい +ほか 1羽)と Tヒナ 1羽	各つがいの繁殖結果を確認するため、巣立ちヒナ調査を行なう。Tつがい:成鳥 2羽と幼鳥 1羽を観察。6. 20の巣内ヒナが巣立ったものと考えられる。Nつがい:成鳥 2羽のみを観察。本年の繁殖は失敗したものと考えられる。風車ひろば以南つがい:Nつがいのテリトリーと重複する場所で頭部から肩にかけて白色のT, Nつがい以外の成鳥個体 1羽を目撃。風車ひろば以南つがいについては常に 1羽のみの観察であり、つがいが形成されているか否か、また塚 2区などの他地区で営巣し7-3区の一部がテリトリーに含まれているのかは不明である。

